

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	・学習目標の明確化を図る。 ・ICTの活用を進める。 ・主体的・協働的に学ぶ学習を図る。 ・個に応じた指導を工夫する。	中間 評価		最終 評価	
環境作り		・安心して学習へ取り組める良好な学級集団を育成する。 ・教室環境を整え、学習や行動の決まりを生徒にわかるように示す。				

■ 教科の取組み内容

教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
国語	調新３年生は、「話す・聞く」の観点で全国平均を下回っているが、それ以外の観点では全国平均より上回っている。新２年生は、すべての観点において全国平均を下回っており、とりわけ「書く能力」の正答率の低さが際立っている。 学授業には意欲をもって取り組んでいる生徒が多いが、意見を発表することに消極的であったり、集中して聞くことが苦手な面が見られる。また、一定量の文章を書くことに苦手意識をもっている生徒も多い。課題提出については、下位層の生徒を中心に不十分な生徒もいる。	・意欲はあっても日本語の理解や表現が難しい生徒も少なくない。 ・作文などの文章表現に関しては、苦手意識が強く、また全体的に語彙力も乏しいため、重点的に指導する必要がある。 ・話し合いや討論、スピーチなど「話すこと」に慣れておらず、活動に消極的な面もみられる。 ・文法・語句に関する知識の定着率が低く、基礎的な学習内容の理解に課題が見られる。	・班活動やペア活動を多く取り入れ、自分の意見を発表する機会を多く設ける。 ・語彙力を高めるために、教科書以外の教材や新聞も積極的に活用していく。また、国語辞典も日常的な利用を促す。 ・文章を読んだ感想や自分の意見など、書く機会を多く設ける。また、作文は「型」を提示したり、モデルを見せたりして、個々のレベルに応じて書ける課題にして取り組ませる。 ・基本的な学習内容の定着が図れるよう、小テストを多く実施し、下位層の生徒や日本語の苦手な生徒のフォローを行っていく。		
社会	調各観点は、全国平均を若干下回っている。特に「知識・理解」では、全国平均値より低い傾向が見られた。「資料活用の技能」の面でも課題が見られる。「関心・意欲・態度」では、意欲的な面が見られる。 学授業は意欲をもって参加する生徒が多い。提出物の状況も概ね良好である。分野によって、興味・関心や学習への取り組みに差がある。	・意欲はあるものの、授業で学習したことが定着していないことが課題である。日本語での理解が難しい生徒も多い。 ・資料活用については、様々な資料を読み取ることができない、苦手になっているところが見られる。 ・社会的な判断力や表現力をつけていく上で必要な、基本的な知識が不足しているところが見られる。	・ICT など、視覚に訴える教材を活用し、関心・意欲をさらに高めていく。 ・知識・理解については、反復学習を重視し、家庭学習なども積極的に取り入れ、その定着を高める。 ・資料活用の技能は、地図や統計などの諸資料に加え、新聞記事なども積極的に取り入れ、活用していく。 ・社会のできごとなどに関して、他者の考えを取り入れながら、自分の意見を述べる過程で、思考、判断力、表現力を高める。 ・日本語の理解が難しい生徒に向けて図や絵等を活用する。		
数学	調正答率は、全国より少し下回っている。 調観点別にみると、「数学的な技能」が少し下回っている。領域で考えると、「数と式」が数ポイント下回っている。 学授業には意欲をもって取り組んでいる生徒が多いが、問題集などの課題の提出となると、下位層の生徒の中には取り組みが不十分な生徒がいる。	・「図形」の正答率が高く、「数と式」や「関数」の正答率が低くなった要因として、授業と学力調査までの時間に相関があると考えられ、学習内容の定着に課題があると考えられる。 ・家庭学習の習慣が定着しておらず、日々の学習の復習を行わせることが課題である。	・「知識・理解」「数学的な技能」に課題が見られるので、演習の時間の確保をし、基礎的内容を反復できる機会を作る。 ・授業直後だけでなく、時間をおいて、学習内容の復習ができるような課題を与える。 ・家庭学習習慣が定着できるよう、授業終了時に授業の復習となる家庭学習課題を与える。		
理科	調「技能」「知識・理解」で全国平均を下回っており、特に「思考・表現」ができていない。しかしながら、理科に対する「関心・意欲・態度」で興味や関心はやや高い傾向にある。 学授業は意欲をもって参加する生徒も多いが、下位層の生徒の中には取り組み方（提出物の状況、実験レポートの提出）が不十分な生徒もいる。	・科学用語の理解や実験手順の理解に苦手が見受けられる。 ・知識の定着不足の生徒が多いが、この要因として家庭学習による学習内容の復習が十分でないことが課題である。 ・中位層から下位層において、自ら課題をみつけ解決しようとする姿勢が不足している。	・知識の定着を図るために授業開始時に授業のテーマの提示、終了時に授業内で行った内容に関する知識の復習、定期考査試験前の語句や知識の復習を行う。あわせて、家庭学習の充実を図る。 ・実験方法や実験により得られた結果について班で話し合い活動を行うことにより、自ら課題を解決しようとする姿勢を育成し中位層の底上げを図る。 ・実験の目的を明確化し、実験手順の意味を考えさせることにより実験内容の定着を図る。		
英語	調新２、３年生ともに、全ての観点における正答率は全国より上回っている。 調他の３観点が正答率 60%を超えているのに対し、表現の能力は新２年が 47.7%、新３年が 48%と低い。領域別では、「書くこと」の正答率が「聞くこと」「読むこと」に比べて低い。 学授業には意欲をもって取り組んでいる生徒が多く、言語活動にも積極的な態度が見られる。「書くこと」による表現活動には苦手意識をもつ生徒も見られる。課題提出に関しては、中位層・下位層を中心に取り組みが不十分な生徒がいる。	・「表現の能力」を伸ばすために、各単元での言語材料を用いた表現活動に重点を置いて指導する必要がある。 ・普段から様々な場面設定をし、その場面に応じた返答や言い回しを繰り返し指導していく。また、今後求められる即興を意識した言語活動を行う力を身につけるために、知識中心の指導ではなく、発表等の表現する機会を増やす。 「話す」だけでなく「書く」ことの指導にも重点をおくことが課題である。	・ペアワーク、グループワークを多く取り入れ、既習事項を活用しながら自分の意見を表現したり伝えたりする活動を継続的に行う。 ・既習事項の語意や表現を用いて、話すことから書くことへのつながりのある指導を行う。 ・既習事項の語意や表現を用いて、英文を書くルールを理解して書くことを継続的に指導する。教科書の各パートにある「Write」を活用することで、短い英文を書くことに取り組みせ、Daily Scene でまとまりのある英文に取り組ませる。		